

議案第1号

木更津市地域公共交通網形成計画

最終評価について

計画期間が終了したことから、計画に位置付けた実施事業に対する評価検証を行います。

〈計画期間〉

平成 30 年度(2018 年度)～令和 4 年度(2022 年度)



木更津市地域公共交通網形成計画の最終評価シート

木更津市地域公共交通網形成計画の策定後、毎年行ってきた評価検証を踏まえ、計画期間の始まる平成30年4月から令和4年3月末までの評価検証結果を、下表のとおり整理します。

事業評価	A：目標を達成することができた B：概ね目標の達成することができた C：一部課題等があり、目標達成には至らなかった D：目標をまったく達成することができなかった
------	---

事業	取組状況	評価指標	現況値（H29）	事業評価	今後の課題
			実績値		
			目標値（R4）		
① まちづくり協議会・NPO*法人等による新たな交通システムの導入	＜交通不便地域における新たな交通システムの導入＞ ○富来田地区 ・令和2年7月1日から実証運行を開始した自家用有償旅客運送*（交通空白地有償運送）を、令和3年7月1日から一部運行内容を見直して、本格運行に移行。 ○鎌足地区 ・タクシー事業者及びバス事業者と協議を進め、予約（デマンド）による区域運行型輸送サービスを基本に検討を進めたが、資金面や運行内容、担い手に関する課題が表出している。引き続き運行サービスや運行体制等について、協議・検討・調整をしていく。 ○金田地区 ・土地区画整理事業*の進展により地域の生活環境も変化していることや地区内に開業した病院が通院のための送迎車を運行していること等から、新たな交通システムの導入については、まちづくりの進展を見据え検討を行いたいとの地域の意向があり、協議を見合わせることにした。	導入件数	1件	C ・鎌足地区において、新たな交通システム導入に向けた検討を行っているが、令和4年度内に導入することができず、計画期間内の目標達成には至らなかった。	・今後も新たな交通システムの導入に向けた地域主体の取組を支援する。 ・新たな交通システムについて導入を検討する交通不便地域を3地区に限定していたが、検討を可能とする交通不便地域の見直し（拡大）が必要となる。 ・地域住民が、新たな交通システムの導入に向けた検討を行うにあたっての手順や、地域住民・行政・交通事業者の役割などを整理した資料の作成が必要となる。
			2件（R4）		
			4件		
②集約拠点を軸としたバス路線の再編	＜バス路線の再編＞ ○中郷・富岡線の短縮 ○八幡台ニュータウン線、シーアイタウン線、真舟団地・君津中央病院線の運行ルート変更 ○馬来田線の短縮 ○かずさアカデミアパーク線、高倉線を統合し、高倉アカデミア線を新設 ○鴨川線の停留所の増設 ○太田循環線の延伸 ○市街地循環バスの実証運行 ○木更津市内循環線のダイヤ改正	路線バス利用者数	2,181,778人	B ・木更津市内循環線について、再編の検討が進んでいないものの、それ以外の路線バスの再編は終了しており、概ねの目標が達成されている。	・新型コロナウイルス感染症の影響による新たな生活様式の普及等に伴い路線バスの利用者数が減少に転じ、バス事業者の収益が悪化していることから、運行エリアにおいて路線バスが担う役割は維持しつつ、バスの運行効率をあげるため、バス路線の再編を促進する必要があります。 ・まちづくりの進展による需要の変化などに対応した路線バスの再編についても検討が必要です。 ・運転手の労働時間等の労働条件の向上を図るための改善が令和6年4月に適用される予定であり、全路線のダイヤの見直しにも対応する必要がある。
			2,128,843人（R4）		
			2,203,000人		
		公共交通に対する満足度	36.4%		
			42.6%（R4）		
			41.4%		
③主要交通結節点における円滑な乗換えダイヤの編成	＜主要交通結節点における円滑な乗換えダイヤの編成＞ ・平成30年度以降、以下の取組を実施している。 ○JR木更津駅、JR巖根駅、JR馬来田駅及び木更津金田バスターミナルにおいて円滑な乗り継ぎができるよう、ダイヤ改正時は事業者間で事前に情報共有を実施。 ○市は交通事業者に対して円滑な乗換えダイヤの編成を検討するよう促し、交通事業者は提供された情報を踏まえて検討している。	路線バス利用者数	2,181,778人	B ・市と事業者間で情報共有を継続して実施しており、概ねの目標が達成されている。	・路線バス利用者アンケートの結果によると、改善して欲しいサービスの上位に「鉄道との乗り継ぎ」が挙げられていることから、継続してダイヤの改善に取り組む必要があります。 ・これまで運行していた路線バスの運行効率をあげるため、集約拠点において乗り継ぎが生じるような再編を行う場合は、利用者の運賃負担が増えないよう乗継割引制度の導入等が必要です。 ・乗継割引制度の導入は、路線バスの利用を促す観点から必要です。
			2,128,843人（R4）		
			2,203,000人		
		公共交通に対する満足度	36.4%		
			42.6%（R4）		
			41.4%		

事業	取組状況	評価指標	現況値（H29）	事業評価	今後の課題
			実績値		
			目標値（R4）		
④高速バスの利便性向上	＜運行本数や乗降場所の増加＞ ・平成30年度に木更津－渋谷線、鴨川－渋谷線の新規運行を開始した。木更津金田バスターミナルにおける乗降も可能とした。 ・令和元年度に木更津－渋谷線の増便、鴨川－渋谷線の停留所増設、三井アウトレットパーク－渋谷線の運行を開始。 ・令和2年度に以下の運行本数や乗降場所の増加を実施。 ○君津－東京線：イオンモール富津への乗り入れ開始 ○鴨川－東京線：クルックフィールズ入口へ乗り入れ開始 ○三井アウトレットパーク木更津－王子線：運行開始 ○木更津－川崎線：減便 ○三井アウトレットパーク木更津－松戸線：運行開始 ・令和3年度に以下の運行本数や乗降場所の増加を実施。 ○木更津－東京線：新規停留所「龍宮城スパ・ホテル三日月」「海上自衛隊前」へ一部乗り入れ開始、「潮浜一丁目」停留所の廃止 ○君津BT-USJ線：運行開始 ○君津－羽田空港線、館山－羽田空港・横浜線：全便「木更津羽田野バスストップ」へ乗り入れ開始 ○木更津－東京線：新規停留所「鳥居崎海浜公園前」 ・令和4年度に以下の運行本数の増加を実施。 ○木更津－川崎線、木更津－品川線、木更津－横浜線：平日の木更津金田BT乗り入れ便の増 ○木更津－東京線、君津－東京線：「バスターミナル東京八重洲」オープンに伴うダイヤ改正	高速バス運行本数	266,189本	C ・新型コロナウイルス感染症の影響により、高速バス利用者数と運行本数は激減し、現在は回復途上である。 ・圏央道の県内全線開通などを踏まえ、引き続き、高速バスの利便性向上に向けた検討が必要となる。	・まちづくりの変化による需要変化などに対応して、新たな高速バス路線の検討や既存の高速バスの利便性向上策を検討する必要性がある。
			255,201本（R4）		
			現状より増加		
⑤木更津金田バスターミナルの機能強化	＜木更津金田バスターミナルへの乗入れ路線及び乗換え可能路線の増加＞ ・乗り入れ路線数は、鴨川～渋谷線（平成30年度）と君津BT～USJ線（令和3年度）の2路線が加わり、12路線となった。 ・乗換え可能路線数は、鴨川～渋谷線（平成30年）が加わり2路線となった。	高速バス乗入れ路線数	10路線	C ・新型コロナウイルス感染症の影響により、高速バス利用者数と運行本数は激減し、現在は回復途上である。	・高速バス利用者となり得る市民や来訪者のニーズを把握することが必要となる。
			12路線（R4）		
			13路線		
		高速バス乗換え可能路線数	1路線	・高速バス乗入れ路線数及び乗換え可能路線数は、概ねの目標が達成されており、引き続き、高速バスの利便性向上に向けた検討が必要となる。	
			2路線（R4）		
			2路線		

事業	取組状況	評価指標	現況値（H29）	事業評価	今後の課題																		
			実績値																				
			目標値（R4）																				
⑥ノンステップバス*・ワンステップバスの導入促進	＜ノンステップバス・ワンステップバスの導入＞ ・令和4年度は、 ○ノンステップバス及びワンステップバスの台数：95台 ○バス台数の合計：97台 ・導入率（各事業者のノンステップバス＋ワンステップバス所持台数÷所持台数）＝95÷97≒97.94%	ノンステップバス又はワンステップバス車両の導入率	84.2%	A ・目標は達成されている。	・引き続き、バス車両のバリアフリー化を進めることが必要となる。																		
			97.9%（R4）																				
			89.5%																				
⑦ユニバーサルデザインタクシー*の導入促進	＜ユニバーサルデザインタクシーの導入＞ ・木更津市内に本社または営業所があるタクシー会社及び木更津市内に配車しているタクシー会社計7社において導入されたユニバーサルデザインタクシーは、計画策定時の6台から令和4年度末の57台へ51台増加した。	ユニバーサルデザインタクシー車両の導入台数	6台	B ・72台の目標に対して、57台の導入となっている。	・引き続き、ユニバーサルデザインタクシーの導入を進めることが必要となる。																		
			57台（R4）																				
			72台																				
⑧JR巖根駅バリアフリー化の整備促進	＜JR巖根駅構内エレベーター設置＞ ・実施主体（鉄道事業者）の財源確保が困難となったことから、事業者から提示された東側への改札口新設へ実施内容を見直し、令和3年度に基礎調査を実施。 ＜岩根人道跨線橋エレベーター設置＞ ・令和3年度に詳細設計及び地質調査を実施。 ・令和4年度に工事着工。	JR 巖根駅構内へのエレベーター設置箇所数	—	D ・目標値達成は難しい状況にある。	・令和6年中には計画目標達成の見通しであるため、引き続き、事業を継続する。 ・バリアフリー化以外の利便性向上に向けた施策を検討し、事業者と協議を行う。																		
			0箇所（R4）																				
			2箇所																				
⑨ホスピタリティ*の推進	＜社内研修等の充実＞ <table><tr><td></td><td>H30</td><td>R元</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>バス事業者（3社計）</td><td>60回</td><td>42回</td><td>71回</td><td>94回</td><td>91回</td></tr><tr><td>タクシー事業者（5社計）</td><td>16回</td><td>4回</td><td>20回</td><td>17回</td><td>8回</td></tr></table>		H30	R元	R2	R3	R4	バス事業者（3社計）	60回	42回	71回	94回	91回	タクシー事業者（5社計）	16回	4回	20回	17回	8回	公共交通に対する満足度	36.4%	B ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により研修を開催しにくい状況であったものの、事業者ごとに工夫をして実施しており、概ねの目標が達成されている。	・バス運転手不足が進展しており、新たな対応が必要である。
			H30	R元	R2	R3	R4																
		バス事業者（3社計）	60回	42回	71回	94回	91回																
		タクシー事業者（5社計）	16回	4回	20回	17回	8回																
		42.6%（R4）																					
		41.4%																					
		交通事業者と連携した運転手募集に関する説明会開催回数	—																				
2回（R4）																							
5回																							
⑩公共交通総合マップの作成	＜公共交通総合マップの作成＞ ・公共交通の利用促進に向けて、木更津市全域及び近隣市における公共交通の状況、乗り方、運賃、ダイヤ等について分かりやすくとりまとめた公共交通マップを作成できるよう、他の地域の実例を収集した。 ・「暮らしの便利帳2022（市政要覧2022）」へバス路線案内図を掲載し、また、市ホームページを通じて積極的に運賃、ダイヤ改正等の発信を行った。		路線バスの認知度について「バスのことは何もない」の割合	7.5%	C ・公共交通総合マップの作成には至っていないものの、ホームページ等による情報発信により認知度は上昇している。	・ホームページ等を活用して、公共交通の認知度向上に向けて情報発信を行っていく。																	
		3.8%（R4）																					
		5.0%																					

事業	取組状況	評価指標	現況値（H29）	事業評価	今後の課題
			実績値		
			目標値（R4）		
⑪事業者との連携によるインセンティブ*付与	＜運賃割引券等の導入＞ ・イオンモール木更津で 1,000 円以上の買い物をした者を対象に割引券を発行、往復割引乗車券を販売、高速バスの乗車券と三井アウトレットパーク木更津の買い物券のセット販売、三井アウトレットパーク木更津への高速バス使用来客者に来場時にスタンプを付与し、買物券の発行などを実施した。	取組実施件数	2 件	B ・利用促進に向けた取組を継続的に行っており、概ねの目標が達成されている。	・利用促進の観点から引き続き、事業者と連携して、割引制度の検討及び発行を実施する。
			4 件（R4）		
			3 件		
⑫公共交通情報の提供活動の充実	＜公共交通情報の提供活動＞ ・交通事業者がホームページで掲載したダイヤ改正や新規運行路線等の情報について、市ホームページでも情報発信するよう、随時更新を実施。 ・地域のフリーマガジンに高速バスの路線図・時刻表を掲載。市の広報紙に路線バスの利用を促す記事を掲載。	路線バスの認知度について「バスのことは何も知らない」の割合	7.5%	B ・認知度は上昇している。	・ホームページ等を活用して、公共交通の認知度向上に向けて情報発信を行っていく。
			3.8%（R4）		
			5.0%		
⑬モビリティ・マネジメントの推進	＜モビリティ・マネジメントの実施＞ ・木更津市立小学校児童を対象に、「路線バスの乗り方教室」を実施。（令和元年度：東清小、令和3年度：西清小、令和4年度：南清小） ・かずさアカデミアパークの街づくり協議会及び企業社員に対してモビリティ・マネジメントに関する講演を実施。（令和元年度） ＜木更津市職員によるエコ通勤の推進＞ ・市職員を対象に公共交通や自転車・徒歩による通勤を促す「エコ通勤チャレンジ」を実施。（令和4年度）	公共交通に関するイベントや説明会等の実施回数	1 回	B ・新型コロナウイルス感染症の影響により、一部で実施できず、目標値達成に至らなかった。	・木更津市主催イベント開催時に路線バスの乗り方教室を行うなど、対象者の拡大や実施方法を工夫し、継続的に実施する。
			5 回（R4）		
			6 回		
		「今後、自家用車にあまり頼らない生活をするか」について「そう思う」の割合	18.8%		
			28.2%（R4）		
			23.8%		
⑭交通機関における多言語標記の整備検討	＜案内板等の多言語標記化＞ ・案内所、バス停留所、車両、パンフレットなどの整備を進めた。	公共交通に対する満足度	36.4%	A ・満足度は上昇している。	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い強化されていた政府の水際対策が大幅に緩和され、今後、訪日外国人旅行者数の増加が見込まれること、後述する人口推移の結果によると、市内に居住する外国人の数が増加傾向にあることから、継続して案内看板等の多言語化などに取り組む必要があります。
			42.6%（R4）		
			41.4%		
⑮地域協働による公共交通維持に向けた仕組みづくり	＜地域協働による仕組みづくり＞ ・新たな交通システムの導入に向けた仕組みづくりを検討するため協議を行った他、路線バスを再編するための協議等を行った。 ○協議を行った地区数 ・令和4年度： 1 地区 ・令和3年度： 8 地区 ・令和2年度： 2 地区 ・令和元年度：11 地区 ・平成30年度：3 地区	仕組みづくりの検討のための協議回数	—	C ・主に「新たな交通システムの導入」のための仕組みづくりを考えていたが、新たな交通システムを導入したのは富来田地区のふくちゃんバスのみである。	・地域協働による公共交通の維持に向けて、地域との協議やニーズ把握を継続する。 ・新たな交通システムの導入に向け、基本的な考え方の整理が必要である。
			25 回（R4）		
			20 回		